

(大島郡伊仙町阿三)

位置と環境

遺跡は町の中心地より北へ約2.5km離れた伊仙町阿三の通称イキントウと呼ばれる台地の森にある。町の水源である尺八池の南側にあり、北西に開口する洞穴は約22mの所でほぼ垂直に南西へ進み、約30mの所で幅、高さとも約1mの出口となり、周辺の国有林野内には、中世の一大生産供給地であるカムイヤキ古窯跡群が所在する。ヨヲキとは方言で「ヨヲ＝横穴」「フキ＝竪穴」のことであり、洞穴を表す言葉である。洞穴の大きさは入口が幅約12m、高さ約6mで最も幅の広い所が約12m、狭い所が約6mである。高さは最も高い所が約8m、低い所が約3mである。洞穴内部は数か所に落盤がみられるが、洞穴の中ほどに2か所天井部分が落ちて外光の射し込む所があり、天然の明かり窓となっている。この洞穴は、琉球石灰岩が溶食によってできた鍾乳洞であり、岩盤は輝石安山岩である。

調査の経緯

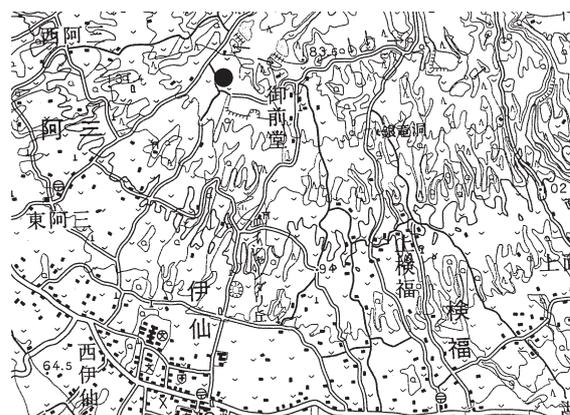
ヨヲキ洞穴は、昭和59年3月11日、カムイヤキ古窯跡周辺の分布調査を行っていた義憲和によって発見された洞穴遺跡である。重要遺跡緊急確認調査に伴い、町教育委員会が調査主体になり、県教育委員会の協力を得て昭和60年5月に確認調査を実施した。調査は、洞穴内部と前庭部全体に2m間隔のグリッドを設け、9か所に任意のトレンチを設定した。

遺構と遺物

調査の結果、縄文・弥生時代相当期の遺物、陶質土器の生活等が確認された。

縄文時代の遺物としては、条痕文、面縄東洞式、面縄前庭式、嘉徳Ⅰ・Ⅱ式土器が出土した。C-11区では、縄文後期から弥生時代相当期の壺形土器、甕形土器、貝類、魚骨、獣骨、甲殻類（カニ）などの遺物が出土した。貝鏃は本土の弥生時代によくみられる磨製石鏃に類似しているものである。

C-8区からは、漆黒色をした上質の黒曜石とサメ歯加工品（完形品）が出土した。本県では志布志町の片野洞穴ほか数例サメ歯の出土例が知られてい

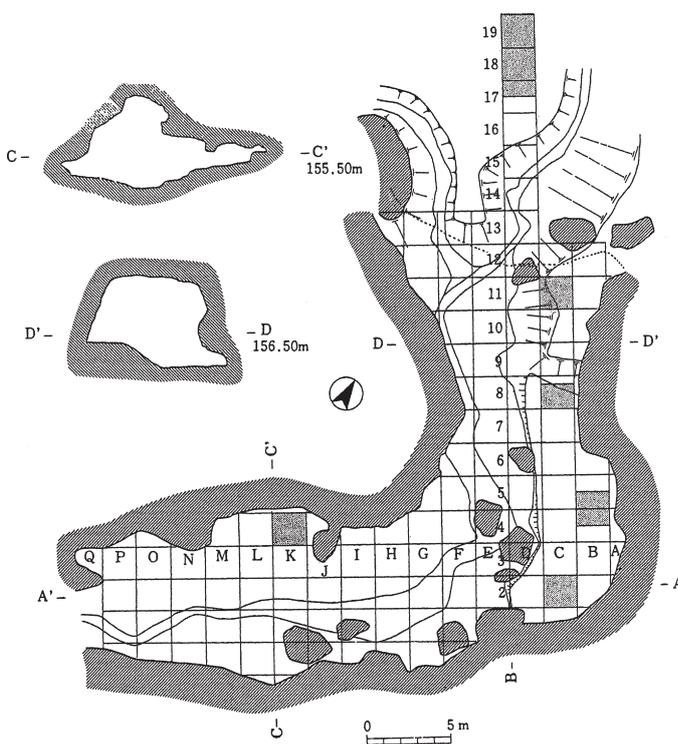


第1図 ヨヲキ洞穴の位置

るが、加工品としては、川内市の麦野浦貝塚の出土品1点がある。歯骨部に両側から3孔を穿つものは具志川島遺跡出土の貝製でサメ歯製品を模したものがあ

特徴

海岸より約5km以上離れた内陸部の洞穴であるが、小型の貝（アマオブネ、アマガイ、タカラガイ等30種）、魚骨、獣骨、カニのハサミ等が出土し、哺乳類としては、イノシシ、鹿、牛、馬、犬、アマミノクロウサギ、ネズミ、クジラの6目8種が確認され、アマミノクロウサギは犬田布貝塚に次いで、我が国



第2図 グリッド配置図と調査区

では二番目の出土例となる。

ヨヲキ洞穴出土の哺乳動物相は、沖永良部島の中浦洞穴のものと非常に類似してその種類が貧相であり、県本土の洞穴遺跡とは際立った対照をみせている。

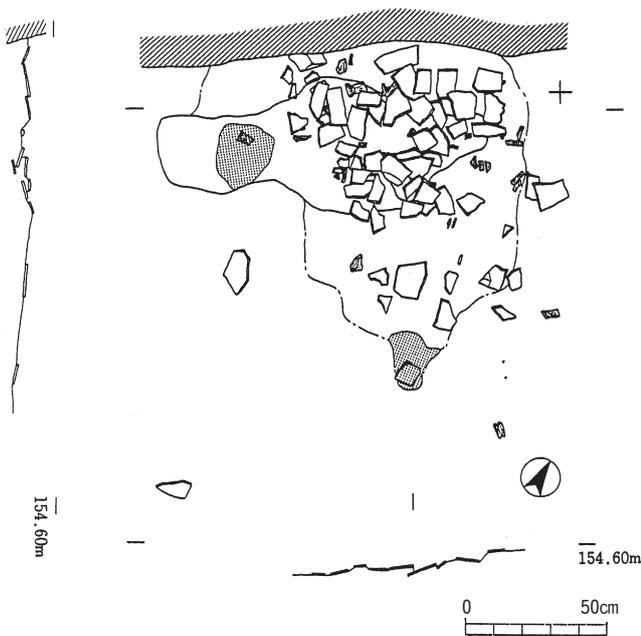
資料の所在

出土遺物は、伊仙町歴史民俗資料館に保管・展示されている。

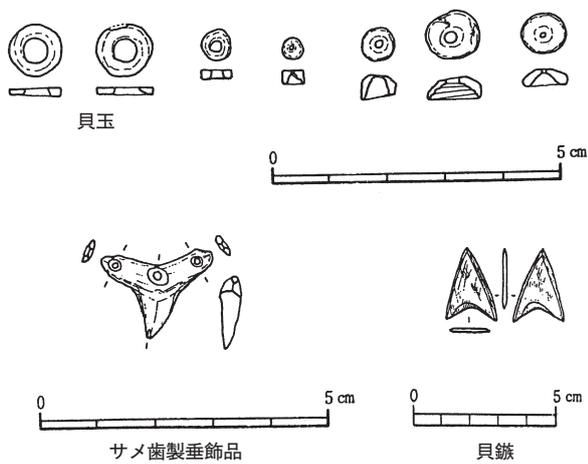
参考文献

伊仙町教育委員会1986「ヨヲキ洞穴」『伊仙町埋蔵文化財発掘調査報告書』6

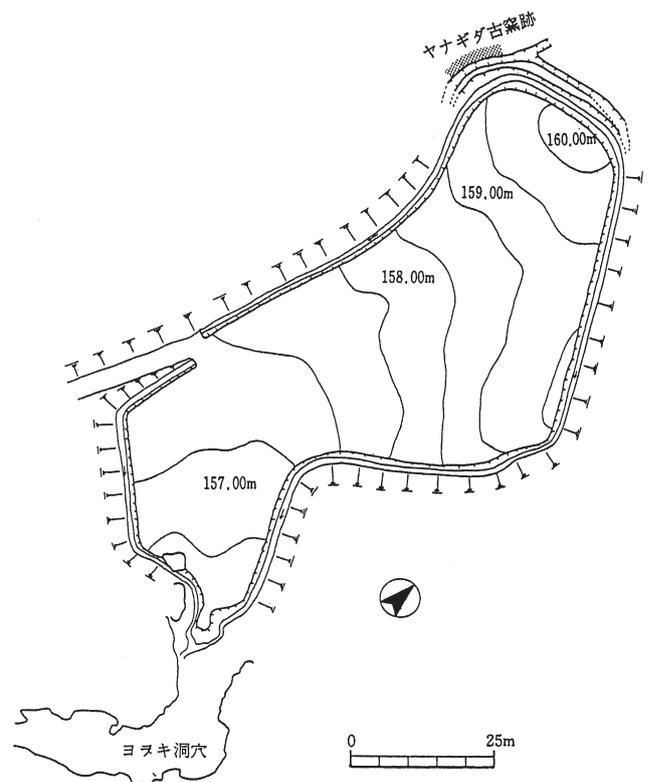
(伊藤勝徳)



第3図 K-4区遺物出土遺物状況



第4図 C-8区出土遺物



第5図 ヨヲキ洞穴とヤナギダ古竃跡

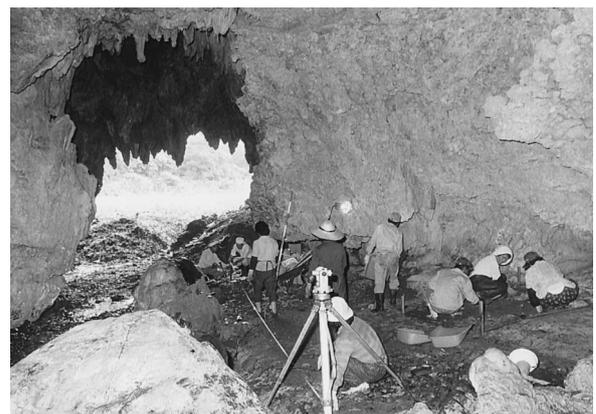


写真1 ヨヲキ洞穴の調査風景